様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　24 年　6 月　8 日現在

機関番号：51601
研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：2010～2011
課題番号：22760400
研究課題名（和文）　中山間地域におけるコミュニティの形成とまちづくり活動ユニットの創出に関する研究
研究課題名（英文）　An Approach to the Formation of Community and the Creation of Units of Community Planning Activities in Rural Area
研究代表者
齊藤　充弘（ SAITO MITSUHIRO ）
福島工業高等専門学校　建設環境工学科　准教授
研究者番号：　20353237

研究成果の概要(和文):本研究は,中山間地域に位置づけられるいわき市三和町を対象として,コミュニティ形成の実態について明らかにすることを目的とするものである。調査・分析の結果，現存コミュニティとして山岳信仰，農耕儀礼，女性の集いの 3 つの起源に基づくコミュニティを見出すことができ，その広がりや人口減少，少子・高齢化を原因とする消失過程を明らかにすることができた。ここでは，11 の大字が一つのまちづくり活動ユニットとして機能し得ることを示すことができた。

研究成果の概要（英文）: The purpose of this study is to clarify the actual condition of the formation of community. The results of research and analysis, it is clear that there are three communities they formed based on the mountain worship, the farming courtesy and the gathering of women. In addition to this, it could clear the process of loss, and it could show that the units of OOAZA are able to function as the unit of community planning activities.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2011 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
年度			
総　計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：　工学
科研費の分科・細目：　土木工学・土木計画学・交通工学
キーワード：まちづくり，中山間地域，コミュニティ，空間構造，社会構造，いわき市三和町

１．研究開始当初の背景

国内の林野面積のおよそ８割，耕地面積や農家数のおよそ 4 割を占める中山間地域は，農林産物供給の場として今後もその役割は大きい。また，豊かで美しい自然環境に恵まれているその姿は，都市住民に憩いや安らぎの場を与えるとともに，国土・環境保全や水資源の涵養といった役割も果たしている。このように食糧生産機能と公益的機能を併せ持つ中山間地域は，時代が急速に変化する中にあっても，変わらずに極めて重要な地域であるということができる。平成の大合併により各地に誕生した広域都市においては，広大な行政区域面積の中に都市部に加えて中山間地域を含む形となっており，中山間地域をめぐる問題は，各都市共通の課題となっている。

２．研究の目的

本研究は，中山間地域に位置づけられるいわき市三和町を対象として，コミュニティ形成の実態について明らかにすることを目的とするものである。その上で，主に生産と生活にみるまちづくり活動を行うためのユニットを創出することを目的とするものである。具体的には，町内 11 の大字を単位に現存するコミュニティの実態について調査し，それを維持・継承しているシステムを明らかにする。併せて，消失してしまったコミュニティを抽出して整理し，その消失過程を明らかにする。その上で，地域住民と連携しながら，まちづくりとして展開していくための活動ユニットを追究していく。

３．研究の方法

(1)研究の方法

本研究は，平成 22 年度と平成 23 年度の 2 年間にわたって，いわき市三和町を対象として 11 の大字単位でコミュニティについての調査と分析を行うものである。具体的には，現存コミュニティと消失コミュニティについての実態調査を通して，コミュニティを維持・継承するための必要条件を抽出し，整理する。その上で，大字単位での比較分析を通して，連携するための課題や条件について追究する。ここでは，明らかとなった課題や条件に基づいてコミュニティを整理し，担い手不足(人口減少，少子・高齢化)により消失されたコミュニティを抽出する。ここでは，抽出することのできたコミュニティについて，地域社会との連携を通して，再生を図るための条件や課題を抽出する。併せてここでは，連携活動を通して住民が主体となったまちづくりに対する姿勢と機運を醸成していく。

(2)研究の対象

本研究の対象とするいわき市三和町は，40 年が経過した広域合併都市・いわき市の中でも西部の阿武隈高地に位置し，旧市町村であるいわき市内 13 地区の中でも最大の面積を誇る中山間地域である。人口は昭和 35 年の 7,831 人をピークに一貫して減少傾向にあり，平成 22 年国勢調査によると，人口 3,424 人，世帯数 1,080 であり，平成 17 年の調査と比較すると，それぞれの変化率が－11.4%，－2.9%と減少している。高齢化率も 30%を超えており，地区（集落）によっては，限界集落間近であると危惧されている。空間構成としては，大字 11 地区を単位として独自の文化や歴史を有し，コミュニティが形成されており，福島県指定重要無形民俗文化財に指定されている渡戸地区の三匹獅子をはじめ，貴重な資源が存在している。また，山間地の中にあってすべての地区に川が通っており，豊富な野生の動植物にみる自然豊かな地域である。

４．研究成果

(1)起源にみるコミュニティの形成

現存するコミュニティについて，起源を基に分類し，11 地区毎にみたものが表 1 である。その結果，「神社祭典」，「祭り・伝統行事」，「その他・行事」の 3 つに分類することができた。全体としては，「神社祭典」が 38，「祭り・伝統行事」が 96，「その他・行事」が 152 であり，合計 286 と数多くのコミュニティが現存していることがわかった。これを地区単位でみてみると，町内で最も東に位置する合戸地区が 35 と最も多く，次いで中三坂地区が 33，上三坂地区と渡戸地区が 31 となっており，いずれも他地区と比較して「祭り・伝統行事」が多い形となっている。

表１　起源にみるコミュニティの形成と分布

地区	分類			合計
	神社祭典	祭り・行事	その他・行事	
上三坂	3	13	15	31
中三坂	7	10	16	33
下三坂	1	5	11	17
差塩	4	6	11	21
上永井	3	6	11	20
下永井	5	7	15	27
合戸	3	15	17	35
渡戸	6	10	15	31
中寺	2	11	14	27
上市萱	3	6	15	24
下市萱	1	7	12	20
合計	38	96	152	286

(2)コミュニティの活動拠点の分布

祭りなどにみる伝統行事の開催地となる「神社・仏閣」をはじめ，コミュニティの活動拠点について分類した結果，「自然・公園」と「公共施設」を加えた 3 つに分類することができた。合計 178 ある中で，地区毎の分布

表２　コミュニティの活動拠点の分布

地区	分類			合計
	神社・仏閣	自然・公園	公共施設	
上三坂	12	3	2	17
中三坂	11	3	2	16
下三坂	8	6	1	15
差塩	10	8	3	21
上永井	9	6	3	18
下永井	8	5	4	17
合戸	8	2	3	13
渡戸	10	5	2	17
中寺	8	2	3	13
上市萱	7	4	2	13
下市萱	8	7	3	18
合計	99	51	28	178

をみたものが表 2 である。これをみると，差塩地区が 21 と最も多く，他地区と比較して「自然・公園」が 8 と多い形となっている。次いで上永井地区と下市萱地区が 18 となっており，やはり「自然・公園」が多い形となっている。

その内容を具体的にみてみると，「神社・仏閣」については，御塚神社が 11 地区全てにおいてみることができる。御塚神社とは，山岳信仰を起源として成立しているものであり，小高い山の上に存在している。これは，山間地域という地域特性が表れる形となっているということができる。また，「馬頭観音」が差塩地区を除く 10 地区においてみることができる。これは，馬力神にみる神仏信仰を起源とすることより，やはり牛や馬を飼育している地区という昔からの地域特性が表れる形となっている。

(3) コミュニティの形成と広がり

①山岳信仰

コミュニティの活動拠点の分布において，「御塚神社」が全 11 地区に存在することが明らかとなった。しかしながら，コミュニティとしての「御塚神社祭典」をみることができるのは，中三坂，下三坂，差塩，上永井，下永井，合戸，渡戸の 7 地区であり，三和町内においても東部に位置する小学校区でいうと永戸地区や永井地区にあり，隣接する複数の地区単位で現存する形となっている。また，図 1 にみるように，そこでは獅子舞を奉納するという伝統より，獅子祭りの開催にもつながっている。しかしながら現状，獅子祭りを開催しているのは上永井，下永井の永井地区，合戸，渡戸の永戸地区の隣接する 2 つの地区のみとなっており，他地区においては，差塩地区を例にとると，かつて獅子祭りを開催していたものの，若者が少なくなり，獅子を務める者がいなくなったことにより消失したという過程を明らかにすることができた。

②農耕儀礼

図 2 にみるように，農耕儀礼に関しては，年間を通した催し物の開催をみることができる。年初めの 1 月に寄り合いを開催して虫除けを祈願することから始まり，5 月の田植え前までに，豊作祈願として祭典を行う。そして，収穫後の 9 月から 11 月にかけては，感謝を神の御前で祝すという形でその年の作物が収穫出来た感謝の喜びを神に讃え，また農作業を手伝ってもらった隣組に御礼をするためとして，風習や祭りを開催することにつながっている。このように，年間を通して農耕儀礼の催しが季節に応じた形となって行われており、秋頃には収穫物の豊作を祈願した大祭を開くなど農作物に対しての伝統や思い入れが大きいことがわかった。この

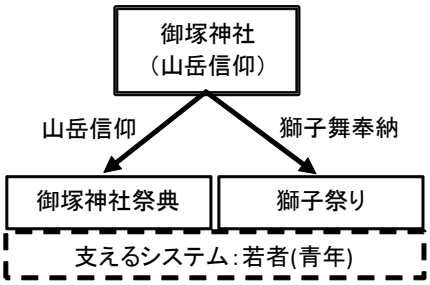

図 1　コミュニティの広がり(山岳信仰)

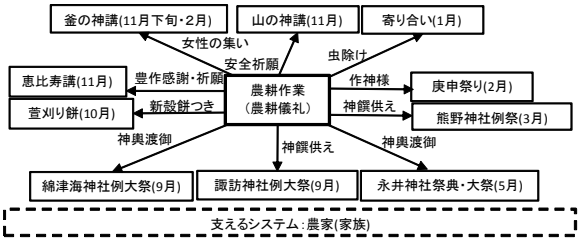

図 2　コミュニティの広がり(農耕儀礼)

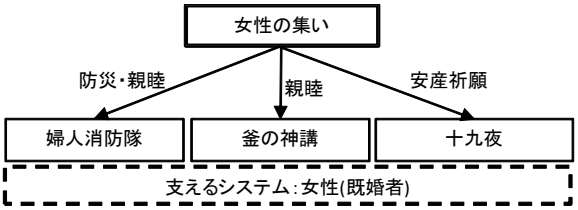

図 3　コミュニティの広がり（女性の集い）

農耕に関する伝統は，昔から現在に至るまで現存する地区では途絶えることなく存在し続けており，時代が変わって農作業を行う人口が年々減少している状況下においても、神仏に対する信仰心の強さと，人とのふれあい，共存し助け合うつながりは変化していないことがわかった。

③女性の集い

図 3 にみるように，女性同士のコミュニティも存在している。十九夜と呼ばれる安産祈願や、地区や町の内外より嫁ぐお嫁さんどうしの親睦を図る釜の神講のように既婚者を中心とするコミュニティが存在している。また，婦人消防隊は、全 11 地区に存在しており，多様な目的の下に活動していることがわかった。

④大字単位にみるコミュニティの形成

大字 11 地区すべてにおいて存在するコミュニティとしては，「芝山歩け歩けリフレッシュ」，「三和の里フェステバル」，「いわき・平田・古殿交流イベント」の「その他・行事」に分類される 3 つが存在している。これらは，近年形成された比較的新しいコミュニティであり，行政が介する行事が各地区共通に存在しているということができる。その中で，「婦人消防隊」が各地区に存在し，日常生活にかかる多様な目的の下に活動している。

また，同じ「その他・行事」に分類される

「子供会」については，かつてはすべての地区に存在していたものの，人口減少や少子・高齢化の影響により，中三坂地区においては消失してしまっており，10 地区に存在する形となっている。その他，「幣束入れ」をはじめとする農耕儀礼を起源とするコミュニティや「春の清掃」，「秋の清掃」にみる「その他・行事」が 9 地区において存在しており，かつてはすべての地区において存在していたものの，やはり人口減少により消失した地区が存在している。

(4)維持・継承するシステムの構築

①大字単位での取り組み

人口減少，少子・高齢化の傾向は，11 地区共通の現象・課題であり，後継ぎや農業の担い手としての若年層の減少，流出への対策は，共通の課題となっている。しかしながら，そのような中にあっても，独自の助成制度を設けるなど地区をあげて伝統的なコミュニティを維持・継承している地区もあり，現存するコミュニティの数の違いに表れている。また，各地区に存在する「神社・仏閣」，「自然・公園」や「公共施設」を地区の財産であると捉え，それを後世に継承しようとする姿勢を通して維持・継承する形もみることができる。人口減少・少子高齢化が進行する中で，維持・継承しているコミュニティの内容と実態は，貴重な財産であり，今後のまちづくりを支える重要なシステムとなり得るということができる。

②まちづくり基本構想の策定

平成 23 年度において，三和町まちづくり基本構想策定員会が立ち上がり，住民主体による基本構想の策定が行われた。そこでは、11 地区毎にまちづくり作業委員を選出し，実働組織としてのまちづくり作業部会を結成して進められた。そこに行政とともに参画し，研究の成果を基に，構想の柱，基本目標，理念を策定した。その結果，11 地区毎に現状と課題を整理した上で，「(1)四季を感じ，人の心を豊かにする美しい自然環境」，「(2)元気とふれあいを生み出す豊かで美味しい農産物」，「(3)世代を超えて持続する誇りある伝統と歴史」，「(4)住み続けたい，暮らしやすい生活環境」の 4 つを構想の柱として掲げることができた。その中においても，農産物については「生産と販売を通して交流する」こと，「伝統と歴史」については集まることの楽しみをつくることや町外への情報発信と交流をするためにも「交流の場とする」ことが方針として示されている。さらに，「生活環境」についても「元気で楽しく生活する」ことや「子供を安心して育てる」ためにも「日常のコミュニケーション」や交流の必要性を示している。

「三和の豊かな自然を将来にわたって維持し，生活する人がいきいきと暮らし，そこに集う人が加わり，輝くまち・三和の里づくりの実現をめざします。」，「四季により移り変わる豊かなまちの顔を活かし，すべての人が住み続けたいと思う持続可能なまちづくりに取り組みます。」と 2 つの理念が掲げられている。このことを実現していくためにも，大字を単位として現存しているコミュニティは貴重なまちづくりの資産であり，生産活動と日常生活の両面において機能させることは，中山間地域の課題である身近な生活環境整備と地域振興につながるものということができる。

まちづくり基本構想の策定においては，大字単位で作業委員を選出して部会を構成することにより，交流と情報交換を通して作業を効率良く進めることができた。大字 11 地区は，それぞれが農作業と中心とする生産活動と日常生活におけるさまざまな活動ユニットとして存在し，機能していることがわかった。現状，学校区という単位により地区間のつながりや連携をみることができる部分もあるものの，町全体としての広がりを持つまでには至っていない。人口減少，少子・高齢化の時代においては，地区間の連携と交流によりコミュニティを維持・継承していくことが一つの方策であるということができるため，そのための条件やシステム構築について追究することが，本研究の今後の課題である。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）

①<u>齊藤充弘</u>，大字単位にみる中山間地域の地域構造とまちづくり計画策定への取り組みについて- いわき市三和町を対象として -，都市計画学会　都市計画論文集，査読有，No.46-3，2011，pp.331～336

〔学会発表〕（計 2 件）

①清水佐久夜，<u>齊藤充弘</u>，中山間地域におけるコミュニティの形成と実態について，平成 22 年度土木学会東北支部技術研究発表会，Ⅳ－27，2011 年 3 月 5 日，東北工業大学

②渡辺彩花，<u>齊藤充弘</u>，人口構成に着目した中山間地域の実態と変化について～いわき市を対象として～，土木学会東北支部技術研究発表会，Ⅳ－1，2012 年 3 月 3 日，秋田大学

６．研究組織

(1)研究代表者

齊藤　充弘（SAITO MITSUHIRO）
福島工業高等専門学校・建設環境工学科・准教授
研究者番号：20353237